

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

第1問 (配点：10点)

文書偽造罪における有形偽造と無形偽造との違いは何かを簡潔に述べなさい。

第2問 (配点：90点)

次の(設例)を読んで、XとYの罪責について論じなさい(ただし、特別法違反の点を除く。)

(設例)

Xは、A大学医学部附属病院(以下「A病院」という。)の麻酔科医師であり、Yは、A病院の手術部に属する看護師である。

A病院の外科の手術に際しては、外科の医師全員によるカンファレンス(会議)が行われていたものの、手術前に、外科、麻酔科、手術部の担当者間で、具体的な役割分担、手術室への入室時刻等につき、格別の打合せ等はされていなかった。また、A病院では、患者にリストバンドを着用させるなど、その同一性を確認する格別の手段も講じられていなかった。

A病院では、某日の同時刻に患者Bの心臓手術と患者Cの肺手術とが予定されていた。Bは、男性、74歳、身長約166.5cm、体重約54.0kgであり、Cは、男性、84歳、身長約165.5cm、体重約47.3kgであった。Bの髪型は、いわゆる職人刈りで、毛髪や眉毛も濃くて黒かったのに対し、Cは、頭部の両脇に白髪が生え、眉毛も白色だった。Xは、そのような両名の身体的特徴を知っていた。

当日、病棟の看護師であるDは、病室からBとCを控室に運んだ際、BとCを取り違え、Bの控室にCを連れてきて、担当のYに引き渡した。Yは、DがBとCを取り違えていることに気づいたが、日頃からA病院の労働条件や人間関係に不満を持っていたことから、患者を取り違えて手術が行われればA病院の医師や看護師らの責任問題になると思い、患者の取違えに気づかないふりをすることにした。Yは、Cに対して誤った心臓の手術を行わせるため、CをBの手術室に運び、Bの麻酔を担当する麻酔医のEとX、および、Bの主治医のFに対し、「Bさんを連れてきました。本人確認も済ませました。」と言った。

Xは、手術台に横たわっていたCに、「Bさん、おはようございます。」などと声を掛けると、投薬の影響等で意識が鮮明でなかったCがうなずいたため、それ以上には意識的に目の前の患者がBであるかを確認しなかった。ただ、その患者の髪が白髪で短かった上に、Xが検査をしたところ、その患者の心臓の状態がそれほど悪くなかったため、Xは、目の前の患者がBではないのではないかとの疑問を抱くに至り、Eにその旨を告

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

げるとともに、Fにも、「髪の毛が短く色も違うので、もう1回見てくれませんか。」などと言った。しかし、Fが、「散髪にでも行ったのではないか。」と言った以上には、誰からも明確な返答がなかった。

さらに、Fが「この胸の感じはBである。」と言ったことや、そもそも患者を連れてきたYが「Bさんを連れてきました。本人確認も済ませました。」と言っていたことから、Xは、目の前の患者はBに違いないと思い、それ以上の確認をせず、Cに麻酔を施した。

その後、FがCの胸部の切開を開始し、執刀医であるGは、患者の心臓に大きな異常がないことに疑問を抱きつつも、心臓の弁を縫合するなどし、Cに対する手術は終了した。

なお、Bにおいては、機器の不具合により麻酔や手術を開始することができず、手術室の前の控室で待機していたところ、BとCの取違えが発覚したため、Bに対しては誤った手術は行われなかった。